

未来へつなぐ、宝塚市の子ども医療

なぜ、一定のご負担をお願いすることにしたのか？

医療費を窓口で完全に無料にすると、「念のため」といった軽症での受診が増加しやすくなる傾向があります。

その結果、医療現場の負担が増大し、本当に医療を必要とする重症患者や救急患者への対応が遅れてしまう恐れがあります。

また、増大する医療費は現役世代の保険料負担増や、将来世代への負担となってしまいます。こうした課題は、全国の多くの自治体が直面しているものです。

宝塚市においては、一定のご負担をお願いする方針としましたが、財政収支の均衡を図りつつ「**地域の医療を守りながら、持続可能な制度**」とするだけでなく、自宅からも気軽に医師に相談できる環境を整えるなど、治療から予防へ取組をつなげてまいります。



当初案と、寄せられた皆さまの切実な声



市の当初提案

対象年齢を高校生まで拡大する一方で、持続可能性を考慮し、全年齢で「1回600円（月2回まで）」の一部負担をお願いする案を提示しました。



対話ひろばでの声

「600円は高すぎる」「小さい子ほど不安で受診が多いのに」「生活困窮者への配慮が必要だ」「子育て支援の後退では？」といった、不安や厳しいお声を多数いただきました。



真摯な受け止め

保護者の皆さまの不安に寄り添い、将来も安心して医療を受け続けられる制度となるよう自己負担額を再検討しました。

再検討した最終案

当初案の「0歳～高校生(18歳) 1回600円」を再検討しました。（現行制度は、高校生（通院）を除き自己負担なし）
対話ひろばをはじめとした多数のご意見を踏まえ、対象年齢に区分を設けるとともに、上限額を見直しました。
また、当初案のとおり、通院の助成対象を**高校生世代まで拡大**します。

対象年齢	（当初案）		新しい自己負担額(上限額)（最終案）	
	通院	入院	通院（1医院につき月2回まで・ 3回目以降は無料）	入院
0歳	1回600円	なし	なし	なし
1歳～小学3年生	1回600円	なし	1回200円	なし
小学4年生～中学3年生	1回600円	なし	1回400円	なし
高校生世代(16歳～18歳)	1回600円	なし	1回400円	なし

✔ 生活困窮者（低所得者）の方については、これまで通り全世代で自己負担額「なし」となります。

保護者の悩みに寄り添う 「オンライン相談」を新たに導入

医療費の一部負担をお願いすることになっても、保護者の皆さまが一人で悩む状況は作りません。

「ちょっとした発疹が気になる...」「育児のことを聞きたい...」——そんな不安や悩みについても、自宅からいつでも気軽に、専門の小児科医へ無料でご相談いただける「オンライン相談」を新たに導入します。

費用の心配も、通院の手間も不要。ちょっとしたことでも気軽にご相談いただける環境を、しっかりと整えてまいります。



オンライン相談が加わり、子育ての「安心」が広がります

～迷ったとき、不安なとき。状況に合わせて最適な相談窓口をご利用ください～

救急医療の相談

 #7119 (救急安心センター)

「今すぐ救急車を呼ぶべき？」
「すぐに病院に行くべき？」と迷ったとき

時間：24時間365日

急なケガや病気の際、看護師等の専門家が症状を聞き取り、
救急車を呼ぶべきかのアドバイスや、救急搬送の手配を行います。

 阪神北広域こども急病センター

「夜間や休日に熱が出た！どうしても
今すぐ診てほしい」とき

時間：夜間・休日

救急搬送まではいかなくとも、対面での小児科医による診察・応急
処置がすぐに必要な場合に直接受診する拠点です。

 #8000 (子ども医療電話相談)

「夜間に熱がでた、朝まで自宅で
様子を見ても大丈夫？」と迷ったとき

時間：夜間・休日

夜間や休日、病院が開いていない時間に、家庭での対処法や受診の
目安について、看護師等が電話でアドバイスします。



日常の不安相談

相談チャネルがもっと身近に

新設

オンライン相談



「ちょっと発疹がある」「育児について相談
したい」といった不安や悩みに

時間：24時間いつでも受付

自宅からいつでも、スマートフォンの画面越しに専門の小児科医
に無料で相談できる新しい仕組みです。わざわざ外出する必要
がなく、一番身近な「安心」をお届けします。

市長メッセージ

これまで無料であった医療費に新たなご負担をお願いすることとなり、大変心苦しく思っております。地域の小児医療を未来へつなぐため苦渋の決断であることをご理解いただければ幸いです。

皆さまの不安を少しでも和らげるため、新たなオンライン相談をはじめ、子育てを支える体制づくりに全力を尽くしてまいります。

宝塚市長 森 臨太郎